



2012年、宝塚大学は創立25周年を迎えました

「宝塚大学 東京メディア・コンテンツ学部」の“今”を伝えます



「クリスマス」をテーマにした作品

〈上〉 マンガコース2年 林崎典子さん（埼玉県 浦和学院高校出身）

〈下〉 マンガコース1年 河野真美さん（茨城県立八千代高校出身）

卒業生がプロ漫画家デビュー

マンガコース 2012 年卒業生の清水詩帆さん（東京都 科学技術学園高校出身）が、講談社のコミック雑誌「月刊少年シリウス」2013 年 1 月号（11 月 26 日発売）で漫画家として連載デビューしました。本学からのプロの漫画連載作家デビューは初めてです。

清水さんは、2010 年（3 年時）に開催された「第 16 回少年シリウス新人賞」で佳作を授賞。以降、編集部のサポートもあって努力を重ね、今回のデビューとなりました。

“清水幸詩郎”のペンネームで連載開始した作品のタイトルは、『2×BONE』（トゥーボーン）。骨喰虫（エクリプス）と呼ばれる異形の骨の怪物と、それに対抗すべく人間の血から造られた骨髄騎士（オステオン）を操る人々が繰り広げる、人類の生存をかけた戦いを描くバトルアクションです。初回はセンターカラーで、合計 63 ページという大ボリュームでのデビューとなりました。今後の清水さんの活躍にご期待ください。



清水さんの新連載が掲載されている

「月刊少年シリウス」2013 年 1 月号の表紙

Copyright © Kodansha Ltd. All rights reserved.

芦谷耕平講師

今回、清水さんが月刊誌での連載を勝ち取った事、そして同時に、宝塚大学東京新宿キャンパスから初の連載作家が誕生した事を、非常に喜ばしく誇りに感じております。何より、私は在学中からの本人の努力をこの目で見て来ました。今回の新連載作のネームは、彼女が在学中からずっと悩み、相談し、描き直して来たものです。努力の賜物、清水幸詩郎の活躍にご期待ください。



月刊少年シリウスに掲載された『2×BONE』第 1 話の扉絵

Copyright © 清水幸詩郎・講談社「少年シリウス」

テグ市の訪問団が来校

日本のデジタルコンテンツ産業の視察に訪れた韓国・テグ市の訪問団が、11月28日に本校を訪れました。

訪問団は、テグ市文化産業課、テグ市デジタルコンテンツ産業振興院の職員のほか、韓国のコンテンツ関連企業5社で構成。日本のコンテンツ関連企業や学校の視察、日本と韓国のデジタルコンテンツ産業に関する情報交換およびネットワーク形成のために来日しました。



テグ市の訪問団との記念写真

情報交換会には、川村順一学部長と渡邊哲意准教授が出席。川村学部長は、東京メディア・コンテンツ学部の概要について説明した後、これまでに地域と連携して実施したイベントを紹介しました。“新宿クリエイターズ・フェスタ”では、宝塚大学の教員と学生が中心となって、区役所の担当者や他大学と協力して企画・運営したことを解説。川村学部長は、「学生には、『外部と連携することでいかにして費用を調達するか』というマネジメントの部分について学んでもらいたかった」「近年、学生や企業、地域とのネットワーク能力は必要になっている。芸術系の大学の学生は全て自分でやろうとしてしまう面があるが、自分のできないことをネットワークを駆使して実現するというのも学んでもらいたかった」と語り、産・官・学が連携した地域イベントに参画することは、学生の成長につながることを力説しました。

質疑応答の中で、視察団からは「産・官とのネットワークが素晴らしい」という感心の声や「韓国とのネットワークをつくる予定はありますか？」という質問が出るなど、有意義な時間となりました。

川村学部長は最後に、「マンガ、ゲーム、アニメなどの“アジアのコンテンツ力”を欧米に見せたい。よい意味でのライバルとして、アジアの国同士で協力していくことが必要」と述べ、アジアのコンテンツ力の向上には、各国の協力が必須であることを強調しました。



川村学部長による大学の説明のほか、意見交換も行われました

HOT TOPICS—③

【社会連携】

病院のクリスマス会に参加

国立がん研究センター中央病院（中央区築地）の小児科で2日に開催されたクリスマス会に、学生たちがボランティアとして参加しました。

今回の参加は、マンガコースのたちばないさぎ講師が仲介して実現したものです。

当日は、イラストコース4年生の有志が、9月の学園祭でも披露し好評だった宝塚歌劇団のパロディー・宝塚寿司組公演『愛と酔の輪舞（ロンド）』を上演。会場に集まった約30名の子供たちは、歌あり・ダンスありの公演を楽しんでいました。その後、イラストコースの学生とたちばな講師は、子どもたちの似顔絵描きを実施。ゲームコースの学生は、持参した試作中の“インフォームド・コンセント”のアプリを、子どもたちやその家族、関係者に使用してもらい、感想を聴きました。



宝塚寿司組公演『愛と酔の輪舞』のチラシ



寿司組のメンバー



上演後は、子どもたちの似顔絵描きを実施



インフォームド・コンセントのアプリの試作品で遊ぶ子どもたち

【社会連携】

地域のイベントで似顔絵描き

新宿区内の戸塚地区で行われた「第1回とつか地区協フェスタ」(11月18日)に、学生が似顔絵描き&似顔絵バッジの制作で参加しました。

会場となった戸塚地域センター(新宿区高田馬場)では、福祉・環境・防災をテーマにした「第1回とつか地区協フェスタ」と「新宿エコライフまつり2012 第2弾」が同時開催。“エコ”をテーマにした落語、高齢・障害疑似体験、AED 実施体験、非常食試食コーナーなど、バラエティ豊かな企画の数々に会場は大変な賑わいでした。

似顔絵描き&似顔絵バッジ制作コーナーには、老若男女を問わず多くの人々が訪れました。来場者は、似顔絵をすらすらと描いていく学生の技術や作品の質の高さに驚くなど感心しきり。完成した似顔絵を渡されると、笑顔を浮かべる様子が印象的でした。



作成した似顔絵(上段)と似顔絵缶バッジ(下段)

宝塚大学の校舎をライトアップ

本キャンパスをライトで彩る「クリスマスライトアップ」が、いま行われています。

宝塚大学創立 25 周年とクリスマスを記念した今回の取り組みでは、青梅街道に面した 2・3・9・10 階の教室の窓を、クリスマスイメージした赤と緑色でライトアップ。また、1 階ロビーの天井には青色 LED を配置し、幻想的な空間を演出しています。

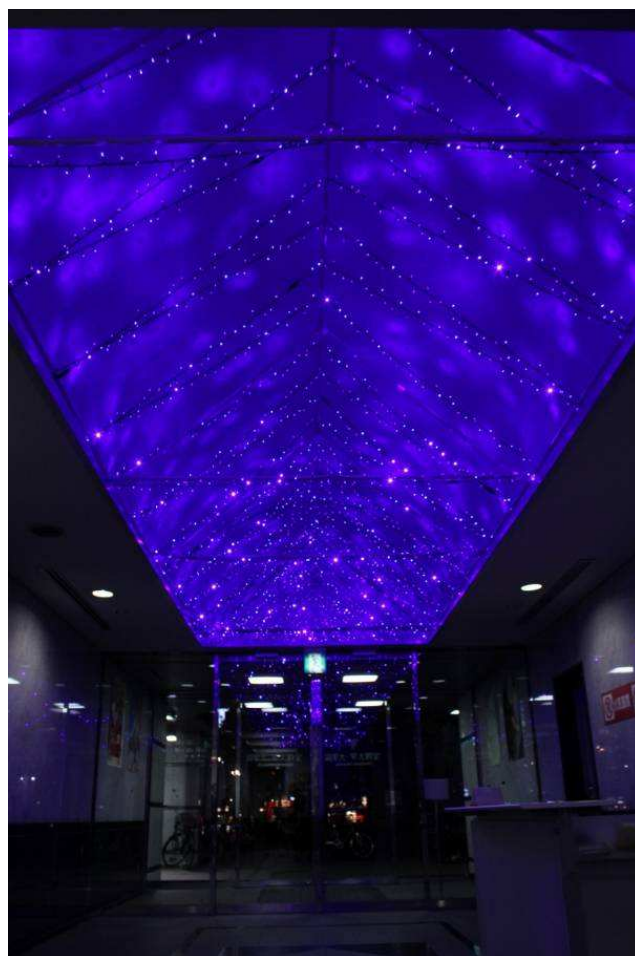
各場所への装飾は、渡邊哲意准教授監修のもと、学生が主体となって 11 月上旬から開始。50 枚以上の窓へのライトのセッティング、室内の光量調整、天井への青色 LED の取り付けなどを 11 月下旬に完了し、12 月上旬からスタートしました。参加した 1 年生は、「やることすべてが新鮮でした。一つのものを先生や先輩方と一緒に作ることが出来て嬉しかったです」と、充実感あふれる表情で話しました。

ライトアップ開始以降、青梅街道に架かる歩道橋やキャンパスの前を通る方々が足を止め、クリスマスカラーに彩られた大学を眺める光景が多く見られます。

なお、ライトアップはクリスマスの時期まで行われる予定です。



ライトアップの様子(外観)



1 階ロビー内のライトアップの様子

HOT TOPICS—⑥

「あゆみてん歩展」に学生、講師らが出展

"アートを楽しむクリエイティブな仲間展"をコンセプトに、山脇ギャラリー（千代田区九段南）で開催された「歩展」（11月24日～29日）に、学生、OG、マンガコースのたちばないさぎ講師が作品を出展しました。

「歩展」は、アーティストの糸井邦夫氏が主宰する展覧会で、漫画家、イラストレーター、画家、アニメーター、デザイナー、主婦、学生など様々な職種の人々が出展しました。出品者は140名にもなり、イラストや立体物など多種多様な作品が一堂に会しました。

本学からはたちばないさぎ講師のほか、2011年卒業生の高野英里さん（ペンネーム：エリゴン、茨城県立伊奈高校出身）、イラストコース1年の布施祥子さん（ペンネーム：ふせしょーこ、東京都立大泉桜高校出身）が出展。会場内に展示された多くの作品の中で、それぞれ存在感を放っていました。



「歩展」のDM



エリゴンさんの立体作品



たちばな講師の作品



布施さんの作品

「海外マンガフェスタ」に出展

東京ビッグサイトで開催されたマンガの国際交流イベント「海外マンガフェスタ」(11月18日)に、宝塚大学のブースを出展しました。

日本初開催となった「海外マンガフェスタ」は、自主制作同人誌展示即売会「コミティア102」との共催という形で行われ、フランスのバンド・デシネ※、アメリカのコミック、アジア諸国のマンガなど、日本以外で出版された世界各国のマンガが一堂に集まりました。出版社や世界各国の文化機関によるブース展示のほか、マンガ家の大友克洋氏、浦沢直樹氏、バンド・デシネ作家のエマニュエル・ルパージュ氏、バステアン・ヴィヴェス氏(共にフランス)らのトークイベントなどが行われ、会場は大盛況でした。

※バンド・デシネ…ベルギー・フランスを中心とした地域の漫画のこと。

本学のブースでは学生・卒業生作品の展示、マンガコースの学生作品集『NEO』の無料配布、学生によるリレーマンガ『決めろ! 愛のクロス☆カウンター』やマンガコース・たちばないさぎ講師が原作・構成、大学院の上原愛弓さん(ペンネーム:川端新、神奈川県立大磯高校出身)が作画を担当した、シンガーソングライター・森圭一郎さんの自伝漫画『うたで走り抜く』(少年画報社刊)などを販売しました。

参加した学生たちは創作活動の参考にするため、普段接する機会のない世界各国のマンガを読んだり、世界のマンガファンと交流することで、創作意欲を高めていました。



宝塚大学ブース



オリジナルカードゲームも販売



ブースでは、マンガコースの作品集『NEO』が無料配布されたほか、マンガコースの学生によるリレーマンガなどが販売されました

ゲームイベントでオリジナル作品を販売

卓上ゲームの販売イベント「ゲームマーケット 2012 秋」が都立産業貿易センター台東館（台東区）で11月18日に行われ、大学院生たちが出展しました。

「ゲームマーケット」は、卓上ゲームユーザーの交流と振興を目的とした国内最大規模の卓上ゲームイベントです。会場には、ボードゲームやカードゲーム、テーブルトーク RPG、シミュレーションゲームなど、プロ・アマ問わず多数のブースが出展。創作ゲームや国内外の新作ゲーム、中古ゲームの販売などが行われました。

学生たちは、歌舞伎町を舞台にしたオリジナルカードゲーム『花鳥風月絢爛街』を販売。“新宿をまるごと二次元化する”がコンセプトの本作品では、新宿で働く人々をキャラクターデザインに採用。学生は、それらの登場人物をモチーフにした衣装を着用して接客するなど、ブース全体でゲームの世界観を表現していました。



『花鳥風月絢爛街』

マッチラベルのコレクション展

マッチラベルの作品や関連資料を集めた「1930年代港町カフェーマッチラベルコレクション展」を、本キャンパスの809研究室〔NE 巢 T (ネスト)〕で開催しています。（日曜・祝日を除く12月28日まで）

本展示は、本学の講師でもある松吉太郎氏の祖父である日本郵船元船長・仙石知保氏のマッチラベルコレクションを紹介したもので、松吉講師からの資料提供で実現しました。

会場では、1930年代のマッチラベル約30点を、北見隆教授のユーモラスなキャプションと共に紹介しているほか、学生が制作したオリジナルマッチラベルや、関連書籍などを展示しています。



学生が制作したオリジナルマッチラベル



「『どこよりもおいしい』」とありますが、お父さんはあまりおいしそうではありません。（抜粋）などのユーモラスなキャプション付で、マッチラベルを紹介

2012 年最後のオープンキャンパスを開催

今年最後のオープンキャンパスを、15日に開催しました。当日は、職員による入試特別相談を実施し、出願前の疑問や不安の解消を図ったほか、直接在校生に話を聞くことのできる機会を設けました。また、ゲームコースの学生が企画・開発した iPhone アプリの体験コーナーや、学生による似顔絵描き、マンガドローイング体験、アニメ制作機器の操作体験など、様々なプログラムを実施し、来場者の大学への興味・理解を深めてもらいました。

なお、次回のオープンキャンパスは、2013年2月2日を予定しています。

※本年度の入試予定については、15ページをご参照ください。



オープンキャンパスの様子

高田講師 グループ展に参加

イラストコースの高田美苗講師が参加するグループ展「Chaos（カオス）～果てしない美と時の迷宮への誘い～」が、ギャラリー オル・テール（中央区京橋）で7日から始まりました。

高田講師は、描き下ろしの新作2点、東京での初展示作品を含む計6点を出展しています。また新作2点の額縁は、植物をモチーフにした自作となっています。

なお、本展には高田講師のほか、版画家の浅野勝美さん、画家の井関周さんが出展しています。

【概要】

「Chaos(カオス)～果てしない美と時の迷宮への誘い～」
浅野勝美・井関周・高田美苗三人展

会場:ギャラリー オル・テール(東京都中央区京橋)

期間:12月7日、8日、14日、15日、21日、22日、28日

※金・土曜日みの開場

時間:13:00～19:30



高田講師の出展作品

授業紹介

マンガデジタル表現

〔受講学年：メディア・コンテンツ学科2年（必修選択課目）担当教員：芦谷耕平専任講師〕

「マンガデジタル表現」は、現在のマンガ作画では必須のスキルとなっている“パソコンを使った作画”の基礎を学ぶ授業です。最近ではプロの作家だけでなく、新人コミック大賞の応募でもパソコンで作画された作品が多く見られ、キャラクターデザイン、イラストレーション作家の間でも、デジタル作画は主流を占めています。

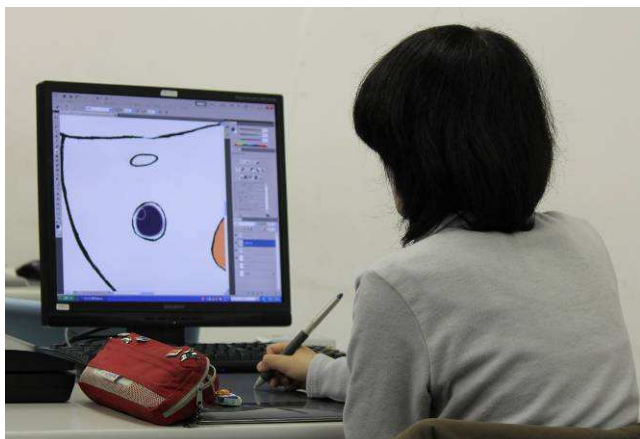
この授業では、Adobe Photoshop、Illustrator、Flash、Corel Painter、ComicStudioなどの定番ソフトのほか、最新ソフト「CLIP STUDIO」も導入し、常に新しい知識の習得を目指しています。また、iPadに代表されるタブレットやスマートフォンメディアを使用しながら、アナログとデジタルの融合による制作を研究しています。



芦谷専任講師

12月上旬に行われた授業では、これまでに習った技法を用いて「クリスマス」をテーマにしたイラスト作品の制作に取り組みました。若いサンタクロースがクリスマスリースに腰かけているかわいらしい作品、デフォルメした雪の結晶とクリスマスツリーを組み合わせたポップな作品、擬人化したイケメンのトナカイと女性のサンタクロースのコンビを描いたファンタジーな作品など、様々なアイデアのクリスマスイラストが完成しました。

芦谷講師は、パソコンを用いた作画について、「これまでに習得したアナログスキルとは異なるテクニックが必要だが、これらを使いこなせば非常に便利。ただ、あくまでも道具であるから、これだけで絵が上達するわけではない。より自分の作品のクオリティを上げるための制作補助のツールに過ぎないということを肝に銘じる必要がある」と、パソコン作画における心構えについて説明しました。



ペンタブレットを使用して作品を描く学生



「クリスマス」をテーマに学生が制作した作品

教員紹介

安田隆浩専任講師(イラストレーションコース)

興味へのこだわりが個性につながる

大学に入学する時点で、学生たちの経験や力量は様々です。しかし、イラストに限れば、「絵が上手いから使ってもらえる」というものではありません。イラストコースでは、入学後に“手描き”の基礎を中心とした授業を行い、またパソコンを使用したキャラクターデザインなども学びますが、“技術を補う発想力やアイデア力”を身に付けてもらうことも大きなテーマとしています。個人でいかに魅力ある表現の完成度を高めることができるか、興味のある対象をいかに突き詰め、こだわることができるか、それが個性になり面白さが生まれます。



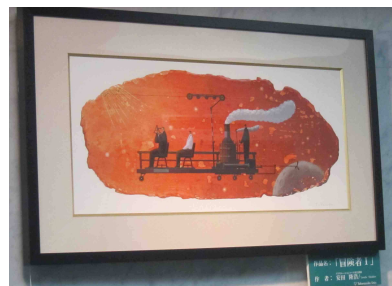
安田隆浩講師

絵が好きでイラストを選択する学生が多いですが、絵を楽しんでいる、かつ描き続けることができる学生は教えていても特にその成長を感じます。4年間で様々な課題がありますが、それに対して真剣に全力で取り組むことでかなりの経験となります。そして色々な経験を積むことが基礎力につながると考えています。

イラストは絵画的な芸術と違い、他の人に見てもらい、感じてもらい、そして使ってもらうことが重要です。職業としてのイラストレーターは、基本的にフリーランスの世界であり、社会に出れば人とのやりとりや接点が仕事の上で大切になります。そうした意味からも、学生たちには恥をかいて、積極的に他の人から意見や感想をもらうことを大学時代から大事にしてほしいです。

イラストレーターの醍醐味として、「依頼された仕事に対して相手を良い意味で裏切って満足させること」が挙げられます。そのため、私も作品づくりは普段より少し背伸びした所で勝負することを意識しています。この程度でいいやと思った作品を提出していれば飽きられてしまいますし、そもそも採用されません。

4年間、日本画や油絵と変わらないジャンルとしてイラストを学べる大学は多くありません。絵画を専攻して作家や先生になる道もありますが、イラストレーターはより現実的に、直接仕事と結び付く職業として捉えることができます。イラストレーターになりたい人、真剣に絵で食べていきたいと考える人、就職してからも絵が好きで創作活動に励みたいと思う人は、ぜひ宝塚大学を選択肢のひとつとしてもらえるとう幸いです。



大学玄関に飾られている
安田講師の作品

<安田隆浩講師>

昭和 36 年東京生まれ。東京藝術大学美術学部卒業。『あんず林のどろぼう』（立原えりか・作／岩波書店）、『走りつづけて、かがやいて』（立原えりか・作／旺文社）、『かいぞくゼリービーンズ』（渡部めぐみ・作／ベネッセ）などの童話の挿絵をはじめとして、本、CD のカバーイラスト、広告など幅広い創作活動を行う。

学生紹介

イラストレーションコース 4年

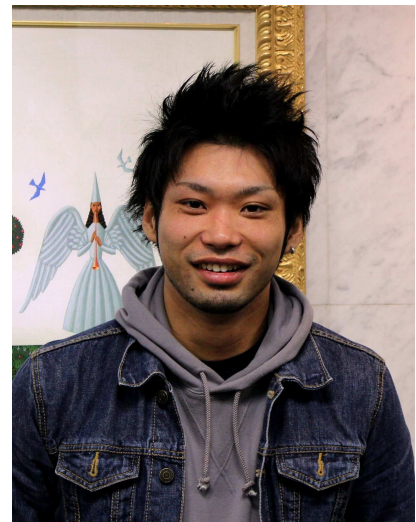
小松崎剛志さん（茨城県立水海道第二高校出身）

社会人になっても、好きな絵を描き続けたい

— 絵を描くこと、宝塚大学との出会い

「物心がつく前からマンガの模写をやっていた」と家族から聞いています。高校時代には美術部に入り、油絵などを描いていました。美術部から遠ざかっている時もありましたが、進路について考えることになり、「自分には何があるだろうか」と問いかけてみた時、あらためて「絵を描くことが好き」ということに気づき、進路を決定しました。宝塚大学を選んだのは、美術部の恩師から紹介されたことがきっかけです。

大学に入り、同級生たちの個性的な作品を見て、「世の中は広い」と思いました。それぞれの生き立ちがあって、違うものを今まで見ているからこそ、描く作品のスタイルも違うんだとも感じました。



小松崎剛志さん
株式会社レッドバロン 内定

— 就職とその後のキャリアについて

オートバイの販売やメンテナンスなどを行う「レッドバロン」という企業の内定をいただきました。バイクを好きになったのは、中学生の時にバイク好きの父親の後部座席に乗せてもらったことがきっかけです。今では、友人や、父とそのバイク仲間と一緒にツーリングに行くこともあります。

「好きなことを継続すると何かの形になる」と信じているので、社会人になっても絵は描き続けようと思っています。入社して、研修後は各店舗に運営スタッフとして配属されますが、ポスター制作をできる機会があるようなので、是非やってみたいです。また、将来広告部への転属を目指しているので、絵の制作やパソコンでのデザインは続けたいと思っています。

— 大学生活について

特に4年生の今年が充実していました。学生万博（他大学も含めた学生たちが企画・運営するアートイベント。2012年夏開催）の手伝い、野焼き陶芸への参加、学園祭の準備、大阪研修旅行への参加、とイベントが盛りだくさんでした。

— 高校生や在校生へのアドバイス

高校生には、興味があるものには何でも挑戦してほしいです。あれこれ考えて動けないよりも、動いてから考えるという姿勢の方がよいと思います。在校生には、今よりもさらに外の世界に飛び出してほしいです。今の下級生たちはコースの垣根にとらわれない、元気な学生が多い。だからこそ、外に出てさらに世界を広げることで、より成長できると思います。

学生紹介

イラストレーションコース 1年

松澤綾さん(石川県立小松高校出身)

充実した環境で、表現力のさらなる向上を

— 宝塚大学を選んだきっかけ

中学から高校1年生まで吹奏楽部だったので、音楽の方向に進もうかと考える一方、小さい頃から好きだったイラストを学ぼうかとも悩みました。その結果、続けるにはイラストの方が向いていると思い、進路を決めました。ゲームやキャラクターなどを考えることも楽しかったので、かっちりとした「美術」(絵画)だけでなくイラストレーションも学べる大学ということで、宝塚大学を選びました。また、新宿という街の“情報の発信力”や、“イベントの多さ”という面も、大きなポイントでした。

入学してから気づいたことなのですが、私が好きで今でも手元に残してある、小学校の国語の教科書の表紙絵は、安田先生(イラストレーションコース専任講師)の作品でした。この大学を選んだのも、何か運命的なものだったのかもしれない。



松澤綾さん

— 大学の授業、雰囲気について

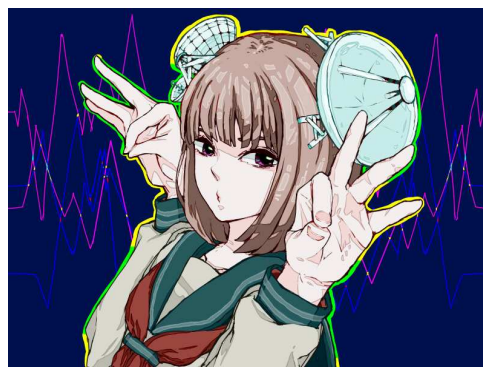
授業では、パソコンでイラストを制作したり、絵の具で作品を描いたり、粘土を使って立体作品を作るなど、様々な課題に取り組んでいます。今は、色々な手法を体験することで、自分に合った表現方法を模索している段階です。

イラストレーションコースの人たちは、絵が好きで、向上心の高い人たちばかり。「将来はもっとこうしていきたい」とか「もっとうまくなりたい」という高い意識を育める、よい環境だと思います。また、自治会に入っていることから他学年の人たちとコミュニケーションを図る機会が多いのですが、話を聞いてくれるよい先輩が多いです。学生数が比較的小規模だからこそ、縦のつながりをつくりやすいと思います。

— 学外活動に参加して気づいたこと

先日開催された「コミティア(自主制作同人誌展示即売会)」に、友人と一緒に初めて参加しました。他の出展者の色々な作品を見て、“作者の世界観”の重要性を感じました。「絵はもっと自由に描いていいんだ」と思えるようになり、参加して本当に良かったと思っています。

2年生になると、主体的に動かなければいけないことがより多くなります。その中で、自分をうまく表現できるようになりたいです。そのために、イベントに積極的に参加して、自分の作品を多くの人に見てもらう機会を増やしていきたいです。



松澤さんの作品

今後の予定

■ 2013年度（2013年4月入学）AO・一般入学選考日程一覧

試験区分	出願期間 (締切日当日消印有効)	試験日	合否発表日	入学手続き締切日
一般入学 選考1期	2013年1月7日(月) ～ 1月21日(月)	2013年1月27日(日)	2013年1月30日(水)	2013年2月14日(木)
一般入学 選考2期	2013年2月4日(月) ～ 2月18日(月)	2013年2月23日(土)	2013年2月27日(水)	2013年3月14日(木)
AO入学 選考4期	2013年2月12日(火) ～ 3月11日(月)	2013年3月17日(日)	2013年3月21日(木)	2013年3月28日(木)

■ 宝塚大学 東京メディア・コンテンツ学部「オープンキャンパス」

日 時：2013年2月2日（土）13：00～16：30

内 容：学校紹介、入試説明、コース紹介、相談コーナー、作品展示、アプリ体験コーナーなど

※オープンキャンパス特設サイトを公開中

<http://www.takara-univ.ac.jp/tokyo/opencampus/>

■ ボックスオペラ 北見隆・木村繁之・建石修志「fig.3 天使篇」

日 程：12月17日（月）～26日（水）

時 間：11：00～19：00（最終日17：00まで）

会 場：スペースユイ（東京都港区南青山）

内 容：昨年に引き続き開催される、北見隆教授が参加するグループ展。

今年はクリスマスの王道である「天使」をテーマとした立体、平面作品などを展示。





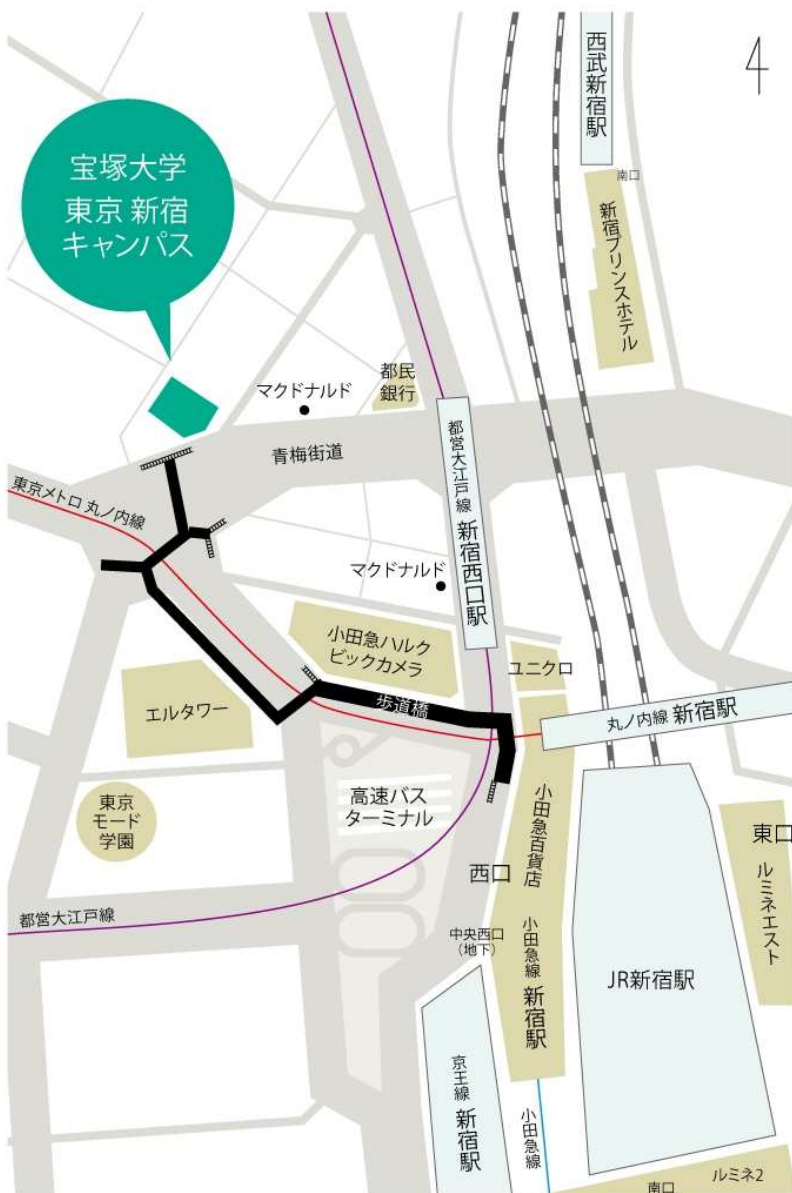
www.takara-univ.ac.jp

東京 新宿キャンパス

東京メディア・コンテンツ学部 | 大学院
〒160-0023 東京都新宿区西新宿七丁目11番1号
TEL.03-3367-3411 FAX.03-3367-6761
[E-mail] tokyo@takara-univ.ac.jp



■ 周辺マップ



4

<宝塚大学 東京メディア・コンテンツ学部に関する情報のお問い合わせ>

宝塚大学 東京 新宿キャンパス 広報室
担当: 金澤、山本 TEL:03-3367-3411

<ご掲載・写真データ等に関するお問合せ>

宝塚大学 東京メディア・コンテンツ学部 広報事務局 共同 PR 株式会社
担当: 江頭、高橋 TEL:03-3571-5228